

階層・階級研究の知識社会学的省察

高坂健次（関西学院大学）

質問紙調査による階層・階級の経験的研究は、つきつめれば調査項目（変数、ワーディング、回答カテゴリー）と分析手法によって具体化される。本報告では、過去5回にわたるSSM調査の調査票自体を吟味し、使用された分析手法を顧みることによって、それぞれの時代の問題意識がどのようなものであったかを明らかにする。大まかには次のような時代的特徴と全般的問題点が浮かび上がってくるように思われる。

- ・1955年調査：「身分階層構造」の残存の確認と「階層的構造の全体的概観」
- ・1965年調査：社会移動率の測定、「被圧迫階級なき社会」実現、階級・階層帰属意識
- ・1975年調査：地位達成の因果分析、階層クラス分析、職業威信スコア、「中」意識
- ・1985年調査：女性と社会階層、公平感、「階層固定化説」の検討、
- ・1995年調査：文化資本と階層再生産、社会的弱者救済、公平性の基準（理念と現実）

全体を通して、データの集積度には世界に誇るべきものがあるが、分析内容は事実の事後確認的性格をもっており、政策論の弱さが見られる。また、質問紙調査に依存することによって、実態よりは意識に力点をおき、制度改革や歴史的変化の効果を貶価する結果になった。